(註一五) 報償金の制定は其と共に此奇怪な結果を齎らす。マレーは之をスカンヂナヴィア人の間に認めてゐる。自由人の死及び其手、足等に於ける負傷は價格表に附せられるから、債務者の身體は結ばれた債務に對する担保となると考へられる。全ての國で債權者に其債務者の手足を切斷し、又奴隷にする權利を與へたのは此理由からである。

犯人の家族は血の價を支拂ふべき義務を負ひ、犧牲者の家族はそれを近親關係の程度に應じて各員間に分配した。イスランドのグラガスは分配の方法を述べてゐる。即ち家族の男子は近親關係の五つの階級若くは親等に分たれた。父、母及び長子より成る第一階級は三マルクを支拂ひ若くは受けた。第二及び第三の階級は二マルク、第四は一マルク、而して第五は一オール若くは一マルクの八分の一。

報償金はその適用を司どる義務を有する公の團體の設立を包含してゐた。後に至つて、罰金がそれに附加された。報償金は後に至つても犧牲者の近親に支拂はれたが、罰金は國王若くは公の基金に加へられた。之は現代資本主義國に於けると大體同じである。現代では報償金（ウエアゲルド）は損害賠償金及び利息の名を有してゐる。

野蠻人の單純な平等的精神は、彼等をして生命に報いるに生命、傷に報いるに傷の報復の法則に導いた。それは彼の考へ得る、復讐を規制する唯一の道であつた。而し財産の支配下に於ては報復の法則は變革され、生命に對して生命の野蠻な方程式は、生命、負傷、侮辱等に對して獸類若くは其他の品物と云ふ經濟的方程式を以て置き代へられた。——未開人の精神は嚴酷な試練に附せられた。——彼は、彼を抽象の領域に入る事を餘儀なくした所の問題を解かなければならなかつた。彼は一方に於て、其一員の死亡によつて家族に與へられた物質的及精神的損害、而して又その四肢の一つを失つた事により、又は侮辱によつて、個人に與へられた同樣の損害を見積らなければならなかつた。而して他方に於ては、或品物の讓渡より得られる利益を見積らなければならなかつた。——即ち彼は兩者の間に何等直接の物質的關係のない物を割當て、平衡せしめなければならなかつた。未開人は初め殺人の場合に、其犯罪者の社會的滅亡、彼の經濟的死亡、彼の全財産の讓渡を野蠻にも要求した。而して後數多の知的努力の後に生命、眼若くは齒の損失及び侮辱に對してすらも、率を定めるに至つた。此率を定めた事は人々相互間及び物と人の間に於

ける關係に就て、新しい抽象的觀念を獲得する事を餘儀なくした。而して其は今度は彼の頭腦の中に、損害に對して出來る丈け正確に平衡を得た報償を得しめる役目を有する報復的正義の觀念を生ぜしめたのである。

二、分配の正義

本能の中で最初にして最も熾烈な自己保存の本能は、野蠻人を驅つてその祖先なる動物と同樣に、彼の必要とする物を取らしめる。彼の獲得し得るもの全てを、彼はその饑餓を滿足せしめる爲に、又はその幻想を滿足せしめる爲に捉まへる。彼は科學者や藝術家が知的貨物に對すると同樣に有體貨物に向つて行動する。即ちモリエールの句によれば、彼は何處でも見附次第彼の物を取るのである。(註一六)其本能の犧牲者となつた所の歐羅巴の旅行者達は、お上品な道德的憤怒に燃えて、私有財産の創設以前に盜奪の觀念が人類の頭腦に入り込む事が可能であるかの如く、盜人の異名を以て野蠻人を誹謗した。(註一七)

(註一六)ホッブスは曰つた。「自然は吾々各人に全ての物に對する平等の權利を賦與した。自然の狀態に於て各人は、彼の好む所のものすべてをなし、又所有する權利を有してゐる。之よりして、自然はすべての者にすべての物を與へたと云ふ一般の語が由來する。而して其よりして、自然の狀態に於て功用は正義の法則であると云ふ事が推論される。」(De Cive Book 1. Chapter 1.)ホッブス及び自然的權利、自然的宗教、自然哲學を說く哲學者等は、彼等の權利、宗教、哲學等、其は決して自然的ではない所のもの、觀念を、自然に附してゐる。メートル制度の觀念を自然に歸し、又自然的なメートル、及びミリメートルを哲學化しようと云ふ數學者に就て吾々は何をか云はう。長さの尺度、法律、神及び哲學的觀念は人間の作つたものである。人は其私の、若くは社會的の必要に從つて其を發明し、修正し、變更した。

(註一七)ブリッソーの語、所有權を自ら受け入れたブルドンは、彼が社會的公理として、其「財産は盜奪なり」の語を立てる時、同樣の誤謬を犯したものである。何故なれば盜奪は財産の結果であつて、其決定的原因ではない。財産の歷史的起原は、動産にしても不動産にしても、決して其初に於ては掠奪の性質を有しなかつた。――其は其以外である事が出來なかつた

のだ。

此捕捉本能（プレヘンシルインスティンクト）（註一八）は生物の原素的性質の一の變形であるが、それを征服する事又それを抑制する事、而して又それを絶滅するまで壓迫する事は文明の仕事の一つであつた。捕捉本能を抑制する爲に、人類は復讐の情熱を征服し、滅し盡すに要したよりも、一層數多の段階を經過した。此原始的本能の征服は、復讐の馴致によつて荒けづりされた、正義の觀念を決定する事に役立つた。

野蠻人は、無人の地を海に沿ひ、流に沿うて食糧の豐富な所に止まりつつ、小氏族をなして流浪する間は、何等の制限なしに彼の捕捉本能を行使する。けれども太古の前史時代から、生存の手段を獲得する必要は彼をして或制限内に於て其本能を制御する事を餘儀なくする。一國の人口が一定の密度に達する時は、其處に住してゐる野蠻人部落は土地を狩獵地に、又は彼等が家畜を飼養して生活してゐる時は、牧場に分割する。自然の果實、獵の獲物、魚類、又時としては森林に自由に飼育されてゐる豚の群等の生存の手段を保持する爲に新舊大陸の野蠻人及未開人は彼等の領土を中立地帶を以て縁付ける。（註一九）其部落の領地の範圍を越ゆる者は追跡され、追撃され、時としては隣部落に殺害される。其領土の範圍内に於ては、彼は自由に其必要とする物を採る事が出來る、然し其範圍を越ゆれば彼は自ら危險を冒して取るのである。領土を犯す事は、屢若い武士の勇氣と熟練を試練する爲奬勵されたが其は隣部落間の戰爭の最も普通の原因であつた。野蠻人は此等の戰爭を避けて、隣人と平和に生活する爲には、彼等の捕捉本能を抑制し、部落各員の共有財産である、彼等自身の領地の範圍内のみに於て、其本能を自由に放任する事を餘儀なくされた。

（註一八）捕捉的（プレヘンシル）なる語は動物學上の語に存在する。ウエブスターは其を捉へる事、捕まへる事に適應せる、と定義してゐる。

（註一九）テレ・デル・フエゴの粗暴な野蠻人は彼等の領分の限界を幅の廣い空地によつて決定する。ケーザルは、スエヴイ人は廣大な僻地に取圍まれるのを誇としたと云つてゐる。二若くは其以上の部落の中立地帶に、ゲルマン人は境界森林の名を、スラヴ人は保護森林の名を與へた。北アメリカに於ては此空地は普通、結婚により結合してゐる言語を同じくする部落間に於ては

狹く、而して、言語を異にする部落間では廣いとモルガンは云つてゐる。

而し乍ら、此の領地の範圍內に於てすらも、生存維持の必要は、野蠻人として彼等の捕捉本能を抑制する事を餘儀なくする。オーストラリア人は窮乏の時には鷄や豚の消費を禁じ、又麵麭の木の收穫が惡いと豫想される時はバナヽややまのいもの消費を禁ずる。彼等は魚の少い時には或灣內では漁する事を禁ずる。加奈陀の銅色人種は他の理由から牡海狸を殺さない。野蠻人は饑餓の爲に死に瀕してゐる時でも、彼等の部落のトーテムである植物や動物、——卽ち彼等が其物の後裔であるとする所の祖先、——には觸れない。此等の禁止は一層效果あらしめる爲に、屢宗敎的性質を帶びる。其物は禁制され、而して神は自ら其禁を犯す者を罰する。

捕捉本能に對する此等の制限は共產的である。其等は只部落の全員の利益に於てのみ課せられ、而して野蠻人未開人が自發的に其に服從するのは此理由によつてである。而し野蠻人間にすら此共同の利益の性質を帶びない制限が存在する。

野蠻人部落に於ける兩性は彼等の職能によつて明瞭に分たれてゐる。男子は戰鬪し狩獵し、婦人は子供を養育し監督するのである。子供は婦人に屬して、父に屬せず、父は一般に知られず又不確かである。婦人は食料品の保存、食物の調理分配、衣類家政必要品等の製造を司さどり、而して又婦人は最初に於ては農業に參加する。此分離——器官的相違に本づき、亂雜な性的關係を防止する爲に導入され、各性に傳來してゐる本能によつて保持された所の——は各性に特異な、そして他の性の者には死の苦痛を以て禁ぜられてゐる宗敎的儀式及神祕的行爲、及び一方の性の特定の者によつてのみ理解される言葉を創る事によつて、更に强められてゐる。兩性間の分離は不可避的に彼等の敵對を招致したが其敵對は捕捉本能の上に課せられた禁止によつて自ら變化して、最早一般的性質を有せず、特殊の性的性質を有する。又吾々は此を階級的性質を有すると云つても差支ない、何故なればマルクスの云ふ如く、階級鬪爭は兩性間の鬪爭の形に於て最初に現はれるものであるから。玆に此等の性的禁止に就ての二三の例がある。野蠻人部落は普通彼等の喰人の晩餐に婦人の參加する事を禁止する。海狸や、えみゆの肉の如き或種の上等な獸肉は、オーストラリアでは特に武士の爲に取つて置かれる。有史時代の希臘人及羅馬人が婦人に葡萄酒の使用を禁じたのも同樣の種類の感情からであつた。

捕捉本能に課せられた制限は集團的家族財產の創設と共に益々多くなつて來た。氏族の領地が

共同に狩獵し漁獵する如く、共同に耕作する、其氏族民全部の不分割の財産である間は、モルガンによれば、既婚婦人を養ふ爲の食料品は共同財産とされてゐる。又其氏族の領地の範圍內では野蠻人は自由にその必要とする食物を取る。「銅色人種の村に於ては各個人、男子、女子及小兒は何れの小屋へでも、其氏族の酋長の小屋へでも、入る權利があり又その欲する物を食ふ權利がある。」とカットリンは云つてゐる。アリストートルによればスパルタ人は尙此等の共產的風習を保存してゐたが、氏族の耕作地の分割は他の風習を移入したのである。土地の分割は原始人の精神を充たしてゐた嫉妬深い平等の感情に對して充分の滿足を與ふべき條件に於てのみ、起り得たのであつた。此感情はアテネの神話的立法者、セシアスが正義の基礎として與へた公式によれば全ての者は同樣の物を持つと云ふ事を絕對的に要求するのである。食物又は戰利品は孰れも原始人間に於ては最も公平に分配された。彼等はそれ以外に分配する事を考へる事が出來なかつた。平等の分割は彼等にとつては避く可らざる所であつて、故に希臘語に於ては、最初晩餐會に於て各客人に頒たれる部分を意味する moira と云ふ語は、遂に人間も神も臣從する運命の最高の女神を表はす事になつた。而して最初平等の分配、慣習、の意味に用ゐられた dikê と云ふ語は、遂に正義の女神の名となつた。(註二〇)

(註二〇)プラトーの弟子、ポントスのヘラクリデスの斷片にはドリア人の共產的晩餐の記述が載つてゐる。andreias (人々の普通の食事)に於て各人は、長老會議の議員たるアルコンを除く外は、平等の分配を受けた。アルュンは分前の四倍に就て權利を有してゐた。一は其市民の資格に於て、二は食卓の長としての資格に於て、而して他の二は其部落の支持者の爲に。此等は恐らくは其使用人に對して取つて置かれなければならないものであつた。各食卓は、客人に食物を分け與へた、母の特別の管理の下にあつた。此婦人に保有された、分配者の職分は、前史時代の希臘人を甚しく感動せしめ、其結果彼等は宿命及び運を、食物及び獲物の分配に於て受ける部分の意味を表はしてゐる Moira, Aisa 及び Ceres なる女神によつて人格化した。

若しも最も完全な平等の觀念を以て食物が分配されなければならないとすれば、全家族を支持する土地を分配する場合には、もつとそれ以上に目覺めたる平等の精神を以てせられてゐるのであらう。何故なれば土地の分配は家族の男子の數に比例して家族によつて分配されたのであるから。

ナイル川の氾濫が埃及人をして幾何學の第一要素を發明するに到らしめたと云はれてゐるのは正しい。それは川が堤防を決潰して土地の境界を消磨した時に彼等が畑地を再び分配する爲であつた。又他の民族に於て收穫の後に土地を共有し、毎年再び分配する風習はナイルの川氾濫と同樣の必要から起つたものであつた。全ての國に於て、原始人は埃及學派を通過せずして測量の要素を自ら發見しなければならなかつた。測量は當然計算から起る。恐らくは家畜の群は數の觀念を築き上げ而して計算を發達せしめ、一方土地の分割は測量の觀念を發生せしめ、而して容器は容積の觀念を發生せしめたのである。

直線幾何學は當然最初に發見せらるべきものであつた。曲線を無限の直線に分解し、又圓の面積を無限の二等邊三角形に分解する方法を學ぶまでには幾年かの日子を要した。耕地は當時は直線によつて、非常に長い非常に細い平行四邊形に分たれた。而し彼等が平行四邊形の面積を底邊に高さを乘じて測る事を知る以前、又隨つて彼等がそれを平等にする力を有する以前に於ては、原始人は各家族に割當てられる土地が同じ長さの直線によつて圍まれなくては滿足する事が出來なかつた。彼等は土地の上を同じ杖を持つて同じ回數だけ運んで此等の線を定めた。線の長さを測る爲に用ゐられた杖は神聖であつた。埃及の象形文字は正義及眞理の表徵としてキユービツト即ち測量の單位を採つてゐる。キユービツトで測つたものは正しく眞であつた。(註二一)

(註二一)ハクスタウゼンは其奇妙な露西亞旅行中ジヤロスラフの州會堂で土地測量の神聖な單位として尊重されてゐた棒を見たと語つて居る。棒の長さは土地の質に反比例してゐた。最も短いものは最良の土地を測るに用ゐられ、最長のものは劣等な質の土地の爲に用ゐられた。「此の如くしてすべての部分は大さに於ては等しくなかつたが、價値に於ては等しかつた。」

同等の長さの直線より成つた部分は彼等の平等の精神を安んぜしめ、抗爭すべき餘地はなかつた。直線は此の如く、重要な働きをしてゐた。一度直線が引かれゝば、家族の父達は滿足した。其は彼等の平等の精神に充分の滿足を與へてゐた。此理由からして最初直線であるものを表はした orthos と云ふ希臘語は尙更に眞實、平等、正義である所のものを意味してゐる。(註二二)

(註二二)語根 or は希臘語に於ては反對と思はれる三樣の語の形式に用ゐられてゐる。而し其等は土地の分割と相關聯してはゐるが。

一、直線に行く意、

or-thos 眞直の、直立せる、垂直の、眞の、等しき、正しき、

or-me 上方への運動、翱翔、飛躍、情熱、

or-numi 及び or-ino 動かす、鼓舞する、

or-ugma 溝、地中の坑道、

or-ux 鶴嘴、

or-thoo 眞直にする、矯正する、

or-thosios ヅユース——惡を矯正する神、ジユピター。

二、堺す、限る意、

oros 境界、限界、

or-izo 境する、限る、定める、制定する、

or-ios 限界となるもの、

theos or-ios 境界の神、

Zeus or-ios 境界の保護者、ジユピター、

三、警戒の意、

our-os 衞具、監守者、

pul-or-os 門衞、

tima-or-os 罰する者、報復する者、

or-omai 見張する、番する。

直線は、彼等の野蠻な情熱を征服する力を得たから、必然的に彼等の眼には尊嚴な性質を有するものでなければならなかつた。ピタゴラスの徒が彼等の學んでゐた數の性質に眩惑されて、十に對して宿命的な性質を附與し又全ての國民が最初の數に對して神秘的性質を與へてゐるのも同樣の現象である。斯の如く吾々は最初の農耕の民の心の中に直線はすべて正義と考へられるものを代表してゐたと考へていゝのである。

原始人の平等的精神は非常に熾烈であつたから、同じ長さの狹い地帶に分割された土地の分配から、不和の生ずる事を防ぐ爲に、其分割された土地は、書く事が發明される以前は、小石の助

によつて籤によつて分配された。斯の如くして小石を意味する Kleros と云ふ希臘語は又籤によつて割當てられた部分をも意味してゐる。而して更に家產、運命、條件、國等の意味を有する。

正義の觀念は本來土地の分割と非常に密接に連繫してる、故に希臘に於て慣行、慣習、法律、を意味する nomos と云ふ語は、牧場及分配の觀念を包含する數多の語を生ずる nem と云ふ語根を有してゐる。（註二三）

（註二三）Nemo 分つ、分配する、次に、人を法律によつて扱ふ、

nome 牧畜、部分、籤、

nomas 遊牧民、獸群を飼養して漂浪する民、

nomos 最初牧畜、——次に逗留、住居、部分、——而して最後に慣例、慣習、法律、

nomizo 慣習、法律を守る。考へる、信ずる、判斷する、

nomisma 慣習、法律、によつて樹立された物、宗教的慣例、金、

nomisis 崇拜、宗教、信念、

nemesis 他人の權利を犯す者に對する神の怒り、應報の女神、

pro-nomia 特權、

epi-nomia 放牧する權利、

最初、專ら牧場の意味に用ゐられた nomos なる語は時の經るに從つて數多の異つた意味を有するに至つたので（逗留、住居、慣行、風習、法律、）其等は人類の進化によつて附著せしめられた歷史的沈澱物である。若しも吾々が此等の意味を年代史的の列に開展するならば、吾々は前史時代の人民の經過した段階を再び通過する事が出來る、牧場 nomos は放牧の放浪時代を回想せしめる。遊牧（nomas）の止む時から、nomos は逗留住居の意に用ゐられる、而し一度牧羊民が止まつて、一國に其家を選ぶに至ると、彼等はどうしても土地を分配しなければならない。而して nomos は分配の意味を有するに至る。土地の分配が一般の慣習となるに及んで、nomos は其最後の意味、慣習、法律の意味を有する。——法律は本來は慣習を編纂したものである。ビザンチン時代及び近代の希臘語では nomos は最早法律と云ふ意味しか保有してゐない。nomos から nomima 慣習より樹立せられたもの、宗教的慣例、nomizo 慣習を守る、思惟する、判斷する、nomisis 崇拜、宗教、nemesis 分配の正義の女神、等の語が派生する。——之等は土地の分配が

人類の思想の上に及ぼせる影響の數多の證據である。

民族の共有地の分配は前史時代の人類の幻想に新しい世界を與へる。其は吾々の時代に、資本主義的財産の社會に復歸する事によつて惹起されるであらうよりも、一層強烈に一層深刻に本能感情、思想及び慣習を革新した。原始人は彼等の頭腦を、彼等の手の屆く所にある隣人の畑の果實や收穫に最早手を觸れてはならぬと云ふ、奇妙な思想に馴れさせる爲に、彼等の想像し得る限りの妖術に依らなければならなかつた。

籤によつて家族に割當てられた畑地は部落の領地と同じく中立地帶を以て圍まれた。十二表の羅馬法はそれを五呎に定めた。分界線はその限界を劃した。最初はそれは石を積み重ねたもの若しくは木の幹であつた。其が人の頭を持つた柱となり、時にはそれに手までも加へらるゝに至つたのは、後の事である。此等の石の積み重ね又は木の片は希臘人や羅典人にとつては神であつた。其等を置き換へないと云ふ誓約が交はされた。(註二四)鋤夫はそれに近寄る事を許されなかつた。「それは神が鋤の刄で打擲されると感じて『止れ、此れは俺の畑だ、彼處に汝のがある。』と叫ぶであらう事を恐れたからである。」(Ovid Fasti)「その鄰の地界を侵す者は詛はるべし、民みな對へてアメンと云ふべし。」(申命記第十八章十七節)とエホバは怒鳴つてゐる。エトルリア人はあらゆる種類の呪を犯人の頭上に呼び下した。「境界を動かす者は神により罰せらるべし、その家は消え失すべし、その種族は絶滅すべし、その土地は果實を産せざるべし、雹、疫病及天狼星の火はその收穫を破壞すべし、その四肢は潰瘍に掩はるべし、而して腐れ落つべし。」と彼等の聖なる呪咀は云つてゐる。若しも財産が人類に正義を齎らしたとすればそれは又同胞の情を取り去つたものである。

每年テルミナリア(境界の神テルミナスの祭日)には相鄰接してゐる地主は境界標を花環を以て飾り、蜜、小麥、及び葡萄の供物をなし、其季節に作られた祭壇に仔羊を犧牲とした。何故なれば神聖な境界標を血を以て汚す事は罪惡であつた。

(註二四)プラトーは其"Laws"の中に云つてゐる。「吾人の最初の法律は次の如くなるべきである。——卽ち、境界は動かすべからざる者なる故何人も畠を他人の畠と區別する境界に、觸れてはならぬ事、何人も其を其場所に置くべく自ら誓つた石を搖がす事を考へてはならぬ事。」

羅典詩人の言に從つて、恐怖が神を作つた事を眞實とするならば、神は恐怖を呼起す爲に作ら

れた云ふ事は尙更眞實である。ディケ及ネメシスは此種類の神に屬してゐた。彼等は新しい慣習を維持し、それを犯した者を罰する役目を持つてゐた。其共に恐喝し刑罰する爲に聯合してゐるエリニィと同じ樣に恐ろしいディケは、人が新しい土地の慣習を尊敬する風を得てくるに從つて穩かになる。彼女は漸次其禁止的方面を失ふ。ネメシスは分配を司り、土地の分配が平等に行はれる樣に世話をした。メリイガアの死を表す薄彫のネメシスは其手に卷物を持つて表されてゐる。疑もなく此卷物には各家族に當てられた籤が書かれてゐたのである。其足は運命の車の上に休んでゐる。此象徵を理解する爲には土地の各部分は籤引にされた事を記憶せねばならぬ。（註二五）

（註二五）農業は原始人の精神作用の發達に決定的影響を及した。例へば、斯くの如く時の分割に就て彼等の意見を修正したのも其であつた。希臘神話に於ては、日の分割ではなくて、年の分割であつた、時は、元來其數は二つであつた。春の時、――靑々となる、花咲く事を意味するThallo――と、秋の時、果實を意味する Karpus とであつた。土地を耕さずして、自然に實る果實によつて生活してゐた、野蠻人にとつては春と秋とは重用な季節であつた。土地の分割後、時の數は三つに增加した。――Dike、良い牧場、平等、慣習遵守を意味する Eumonia 及び平和を意味する Eirene であつた。ヘシオツドは彼等を彼の神譜に於て、人々に慣習を與へる者、又デメーター、セスモフオラの如く人々の間に平和と正義とを設定する者として記してゐる。

人類が、狩獵、漁獵、及野生果實の收穫によつて生活する間は、他の季節よりも、或季節に戰爭をすると云ふ事は無關心の事柄であつた。而し彼等が種播き、收穫るべき畠を有する時彼等は一年の或季節の間、部落の部落に對する戰爭を中止し、種播時、收穫及び其他の農業勞働の爲に休戰を設定しなければならなかつた。夫から彼等は平和の時 Eirene を作つた、而して此休戰を其の保護の下に置いた。中世時代の天主敎徒は其を神の保護の下に置き、其を「神の休戰」と云つた。Eirene は話すと云ふ語 eir から由來した。ラセデモンに於ては公會に於て話をする權利を有した、二十才以上の青年に eiren の名を與へた。畠の勞働に獻げられる期間、部落、及村落間の爭議は武器によつて解決されずして、談判によつて解決された。――其より話をする女神 Eirene が由來する。

土地の耕作は、書く事にも影響を有つてゐたと云つていゝ。其は希臘人、支那人、スカンヂナヴィア人等によつて用ゐられる書き方によつて證明されると思はれる。其は耕す牛の樣に元

の所に戻つて右から左、左から右へと交互に書くのである。

希臘人は耕作及土地の分配が法律及正義を發生せしめた事を全くよく熟知してゐたから、彼等はエリニィ（註二六）の名を負てゐたアルカディアの牧者の女神、そして又二つのホーマーの詩では何の役目をも演じてゐない所のデメーターから、人々を農業の神秘の中に引入れ彼等に慣習と法律とを與へて彼等の間に平和を樹立した所の、豐穰な土地の女神を作つた。一層古代の型式の石碑ではデメーターはその頭を小麥の穗で飾られ、手には農具及び粒の多い事からして豐饒の象徵である、芥子の種を持つて表はされてゐる。而し彼女を立法者 Thesmophora として示す、一層近代の刻像では、デメーターはその古代の附加物を、土地の分配を規制して、慣習及法律を彫る事に役立つ彫刻刀を以て、又財產の名稱の書き記してある巻物を以て、置き代へてゐる。（註二七）

（註二六）Erinnys は erion 羊毛から來たと云へる。其から eriole 羊毛盜人の語が出る。

（註二七）ミランの神話展覽會（巴里一八一一年）は、數多の賞牌、甕、浮彫、薄彫等を復製したが、其にデメーターは種々の附屬物を持つて畫かれてゐる。

而し最も恐ろしい女神や最も氣味の惡い呪詛や禁制も、幼稚な民族の幻想的な無技巧な、想像を甚しく攪亂はしたけれども、捕捉本能を矯め、彼等の必要とする物を取る人民の宿癖を矯める事には全然失敗した。そこで不斷の戰鬪の生涯に準備する爲に打擲する事はあつても、決して其に刑罰の性質を與へる事のなかつた野蠻人及び未開人の感情及び慣習に全然反對した、前代未開の兇暴な體罰による外、詮方なかつたのである。野蠻人はその子供を打擲しない。「よく愛する者はよく罰する。」と云ふ恐ろしい格言を發明したのは地主の父達である。財產に對する惡計は人格に對する犯罪よりも一層嚴しく罰せられた。不平等の正義の忌はしい法律は引續いて史上に現はれた。そして其結果土地の私有が現はれたのである。

財產は野蠻人に彼等の崇高な平等及び兄弟の感情を足下に踏み躪る事を敎へる事によつて現れ來るものである。死刑を課する法律は財產を脅威する者に對して制定された。十二表の法律は命じてゐる「夜陰秘かに鋤によつて作られし收穫を刈り、又は其家畜を其處に放ちし者は、若し其者が成年者なる時はセレスの神に犧牲に供せられ、而して殺さるべし。若し其者未成年者なる時は長官の意の儘に鞭を以て打擲せらるべく、損害の二倍を以て償ふ事を申し渡さるべし。公の盜人（卽ち in flagrante delicto（犯罪行爲に於て）に取られたる）は若し其者が自由民なる時は鞭を以

て打擲せらるべく、而して奴隷の中に引渡さるべし。乾草の山に放火せる者は鞭たるべく、而して燒き殺さるべし。」（第八表九、十、十四、）ブルグンディの法律は兇猛な羅馬法以上に出てゐる。其は竊盜の罪ある夫及父若くは馬又は牛を直ちに放棄せざりし妻及び十四才以上の子を奴隷に言渡した。（第四十七、一、二、）財産は家族の眞中に間諜を導入した。

動産及び不動産の私有財産が、出現した時から、その行はるゝ下に於ては其變化に從つて發達してゐる所の、而して私有財産の殘る間は保たれるであらう所の、本能、感情、情熱及思想が生じた。

報復の法則は人類の頭腦に正義の觀念の胚種を移し植ゑ、土地の分割は私有財産及不動産に基礎を與へつゝ、之を培ひ果實を結ばしむるに至つたのである。報復の法則は人に復讐の情熱を抑制し、それを調正すべき事を教へた。財産は宗教及び法則の桎梏の下に人の捕捉本能を矯正した。正義の樹立に於ける財産の役目は特に著しく、其以前の報復の法則の作用の如きは、希臘人の如き敏感な民族及びホッブス、ロックの如き銳敏な人々もそれを認めない程稀薄なものたらしめた。實際希臘の詩は法律の發明を、土地の分割及び耕作を司どる女神にのみ歸してゐる。ホッブスは財産の樹立以前、自然の狀態に於ては、人が他人に對してなす如何なる不正義もないと考へてゐる。ロックは「財産のない所には不正義なし、と云ふのはユークリッドの證明の如く確實な命題である。即ち財産の觀念は物に對する權利であり、而して不正義と云ふ言葉の當て嵌まる觀念は其權利を侵害し、瀆犯する事である。」（註二八）と確言してゐる。希臘人及び此等の深邃な思想家達は財産の催眠術に罹つて、人類及びその本能、情熱を忘れて、歷史の最初の、第一の要素を消し去つた。人類及其社會の進化は人類の精力及經濟力及び社會力の相互の作用及び反作用を考量に入れないならば理解し、說明する事は出來ない。

（註二八）ホッブス、De Cive ソルビエルの佛譯に附け加へられた註。Locke; Essay on the Human Understanding.

原始人の平等的精神は、復讐の情熱に打ち勝つ爲に、報復の法則より外見出す事なく又出來なかつたであらう。食物、捕獲品及土地の分配の場合、此同じ平等的精神はセシウスの公式によれば「皆が同じ物を得る爲に」一途に全員に對して同等の部分を要求した。打擊に對しては打擊、

仕向けられたる惡に對して同等の報償、而して食物及土地の分配に當つて同等の部分、と云ふのが原始人の考へ得る唯一の正義の觀念であつた。ピタゴラス學徒は「天秤の平衡を超過しない樣に」と云ふ公理で正義の觀念を云ひ現はした。天秤はそれが發明されるや否や正義の附帶物となつたのである。

而し其起原に於ては平等的精神の表現に過ぎない所の正義の觀念は、それを樹立するに與つて力あつた財產の作用の下に、財產が人と人との間に惹起する不平等を是認するに至るのである。實際、財產は捕捉本能を征服する權利を得る事によつてのみ確かめられる事が出來る。而して此權利は一度獲得された後は、人を支配し、人に對抗する獨立の自働的社會力となるのである。アリストートルは正義をば財產權を獲得する法律に對する尊敬と同視し、而して不正義を此等の同じ法律の侵犯と同視し、又一七八九年のブルジョア革命家達の人及び市民の權利の宣言は、其を「人の自然的にして讓渡し得ざる權利」の中に擧げてゐる。(第二條)而して法王レオ十三世は勞働者の狀態に關する彼の有名な回章に於て之を加特力敎の敎義に變へてゐる。斯の如くまで財產の權利は合法化されたのである。物質は精神を導く。

未開人は財產を以て流血に代へた。財產は人に代はる。文明社會に於ては、人は財產によつて彼に授けられた權利よりしか持たない。正義は生れ出づるや否やその母を喰ふ昆虫の樣に其を生んだ平等的精神を滅ぼし、人間の奴隷化を是認する。

共產主義革命は私有財產を消滅し、「各人に同じ物」を與へて、人類を解放し、平等的精神を復活するであらう。然らば私有財產の創設以來人類の頭腦に附纏つてゐた正義の觀念――哀れむべき文明人を惱ました最も怖るべき惡魔――は消失するであらう。

二　善の觀念の起源

一、勇武の理想の構成

主な歐洲語に於て、有形的の物(Material goods)と道德的善(Moral good)とを表はす爲に全く同一の言葉が用ゐられてゐる。今日吾々はすべてが物質的及智的進化の同一形象を辿る事を知つてゐるから、此事實は文明の一定の段階に到達したあらゆる民族の慣用語に於て同樣であるに違ひないと云ふ事を吾々は輕卒であるとの懸念を抱く事なしに結論して差支ない。此歷史的法則を唱導したヴィコは彼の「シエンザ、ヌオヴァ」に於て「人事の自然に於て全ての國民に共同の心の言語が必ず存在しなければならない。其言語は社會生活の動因である物事の本質を一樣に指示するものである。此言語は物事に現はるべき種々異なつた樣相の數だけ種々の異なつた形式に當嵌められる。一般の分別の規準である所の諺が最も異なつた形式で云ひ表はされてゐようとも、古代及び近代の國民の間に於て其實質が同一であると云ふ事實の中に吾人は此事の證據を見るのである。」と云ふ事を確言してゐる。

羅典語及希臘語で有形的の物及道德的善に當る語は元來は人間に適用された形容詞であつた。

Agathos (希臘語) 強い、勇敢な、寬大な、有德の等、

Ta agatha 物、富、

To agathon 善

To akron agathon. 最高善、

Bonus (註一)(羅典語)強い、勇敢な

Bona 物　Bona Patria 世襲財產

Bonam 善

Agathos と bonus とは普通の形容詞である。此等の語の適用されてゐた未開時代の希臘人及び羅馬人は全て勇武の理想の爲に必要であつた身體的及精神的性質を所有してゐた。そこで此等の

語の不規則の最上級 Arisros, estholos, belistos, 等及び optimus は複數に於て實體的に最良の最上級の市民を云ひ表はす爲に用ゐられる。史家ヴエレイウス・パテルクルスはグラックス兄弟に反對して聯盟した貴族及富裕な平民に optimates の名を與へてゐる。

腕力と勇氣とは相互間及び自然に對して不斷の戰鬪を繼續してゐる原始人にとつては第一の而して又最も必要な德であつた。（註二）腕力のある勇敢な野蠻人及未開人は其に加へて彼等の理想とする他の精神的德性を具へてゐる。斯くして彼等は同一の形容詞の下に全ての身體的及精神的性質を包含する。腕力と勇氣とは然らば德の全體と非常に密接であつたので、羅典人は Virtus なる語を腕力及び勇氣の意味に用ゐた後、其を德の意味に用ゐるやうになり又希臘人は aretē なる語に順次に同樣の意味を與へた。而して原始の武器なる pavelin と云ふ語は希臘語では kalon と云つて後に至つては美の意味に用ゐられ、又其を意味する羅典語 quiris は羅馬市民を云ひ表はす。元來は羅馬人はマルスの神を槍によつて現はしたとヴアルロは吾人に告げてゐる。

（註一）同樣の現象が吾々自身の國語にも見出される。bon（善い）は古佛語では勇敢なる事を意味する。ローランの歌は常に此語を此意味に用ゐてゐる。

Franceis sunt bon, si ferrunt vassalement.

（佛蘭西人は勇敢である、彼等は勇敢に擊つであらう XCI）

大僧正チユルパンに就て語り乍ら、ローランは云ふ。

Li arcevesque est mult bons chevaliers;

Nen ad meillur en terre desuz ciel,

Bien set ferir e de lance e d'espiet.

（大僧正は偉大な騎士である、天が下の地に彼に過ぎる者はない彼は槍や長槍で如何にしてよく擊つべきかを知つてゐる CXLV）

ジヨン王は其勇氣の爲に "Good" と綽名された。十五世紀の作家コンマインズは勇敢な人（brave man）の事を Good man と云つた。英語で Goodman と云ふ語は初め軍人の異名となり、而して家長、家の主人を意味した後、遂に佛蘭西語 bonhomme に於ける樣に農夫―― goodman Hodge に適用された。ホツヂとは農夫を輕蔑して云ふ語である。Bonhomme が一般に農夫に適用されるに至つた事は疑のない所であつて、貴族や軍人は農民から掠奪したから、（good man

によつて食ふと云ふのが普通の言ひ表はしであつた）此語は特異な意味を有するに至り、其を保持したのである。デユカンヂユによれば其は時には姦婦の夫を意味した。接尾語を附加すれば good 及び bon は可笑しくもぢつて goodie, bonasse(質朴な)となる。agathos 及び bonus は古代に於て其樣な意味を有つ事はなかつた。吾々が bonatus,(質朴な)の語に出會ふのは漸く中世の羅典語に於てである。ビザンチン時代の作家は agathos を特に柔しい溫和しい意味に用ゐ、而して近代のアテネの無賴漢は其を懦弱の意味に用ゐた樣である。

（註二）腕力は非常に貴ばれ、イリアッドの第三卷に於て、ヘレンが希臘の酋長等にトロイの老人等を指す時、ウリツセスをメレナウス及びアジヤツクスから區別するのは、其年齡、其容貌若くは其性格によつてではなく其力によつてである。ウリツセスは其肩幅に於て兩者を凌いでゐる。ディオドラス・シクラスはエパミノンダスの特質を概略して、第一に其身體の元氣、其から其雄辯の力、其勇氣、其寬量及び一般に彼の熟練を擧げてゐる。

其當時に於ては、戰鬪の準備する事、其危險に身を曝らす爲に勇氣を養ふ事、疲勞及び缺乏に堪へる爲に身體の力を發達させる事、又囚人となつて課せられる拷問に敗けない爲に精神の力を發達させる事は野蠻人未開の人の身體的及び精神的教育の全部であつたから、力と勇氣とが道德の全部を占める事は止むを得ない事であつた。子供の時代から彼等の身體は體育によつて養はれ、訓練され、又絕食や打擲によつて、時には死に至る程に鍛へられた。ペリクレスはペロポネソス戰役の最初の犧牲者達の哀悼演說に於て、原始的の風習を保存してゐたスパルタに尙行はれてゐた此英雄的教育を、既に民主的ブルジョアの時期に入つたアゼンスの青年の教育と對照してゐる。「吾等の敵は極く幼少の時代から峻嚴な訓練で鍛へてゐる。而して吾々は溫和に教育されてゐるから同樣の危險を冒すだけの銳氣を有しない。」と彼は云つた。亞弗利加の部落の間で此等の勇武の風習を發見したリビングストーンは、或る黑人の酋長に就て英國の軍人と黑人の武士との間の同樣な對照を見出した。

古代に於ては勇武は德の全部であつたから、怯懦は惡でなければならなかつた。斯くして希臘語及び羅典語で怯懦を意味する kakos 及び malus と云ふ語は惡、惡德の意味を有してゐる。（註三）

（註三）戰爭に不適當である事を意味する、imbellis, imbecillis は特に羅典作家によつて心身の弱い事、怯懦の意味に用ゐられた。

malus は一層一般的な意味を有し、其は肉體的及び精神的に須要の德を有たない者に用ゐられた綽名である。

未開人の社會が階級に分化した時、貴族は勇武と國防とを專有した。此專有は（若しも私がブルジョア經濟學の言ひ表し方を用ゐるならば）「自然的」であつた。現代の資本家にとつては、彼等の代りに植民地探險には勞働者及び農民を送り、其上出來る事なら、彼等の國防も、一寸の土地、機械の齒車一つをも有しない無產階級に委す事より自然的な事はないのであるが。貴族は特權として彼等の國家の防禦を彼等自身に保有した。何故なれば、當時人は只其土地の一角を所有すると云ふ條件でのみ國家を有してゐたから、彼等のみが國家を有つてゐたのであつた。商業及び工業の都合から古代の都市に居住してゐた外國人は、父から子まで其處で商賣してゐた家すらも所有する事は出來なかつた、而して彼等は數代その都市に生活してゐながら依然として外國人であつた。アヴエンティンの丘に住んでゐたローマの平民が、彼等の住家を建てた地に土地を得る爲には三世紀に亙る爭鬪を要した。外國人、無產者、職人、商人、農奴及び奴隷は兵役義務を免除せられ、而して武器を帶びる權利なく、又貴族階級の特權であつた所の勇氣を持つ權利もなかつた。（註四）スパルタの執政官達は共和國を其勇氣によつて救つた二千人のヘロット（スパルタの奴隷階級）を反對に殺戮したとツキヂデスは述べてゐる。平民に對して彼等の祖國の防禦に參加する事を禁ぜられた時から、從つて勇氣を所有する事を禁ぜられた時から、勇氣が貴族の至上の德であつた如く、怯懦は必然に平民の第一の德でなければならなかつた。斯くして希臘語の形容詞 kakos（怯懦な、醜い、惡い）は平民を指稱する。所が agathos の最上級 ariathos は貴族階級の者を指稱する。――而して羅典語の malus は醜い、不具の、と云ふ意味を有する。貴族の眼には奴隷及び職人は不具であつて――ゼノフォンによれば彼等の職業によつて不具にされた――體操は貴族の身體を調和よく發達せしめたのであつた。（註五）

（註四）アリストファネス時代の民主的なアテネに於てすら、商人は兵役に徵せられなかつた。彼の「プルウトス」の追從者は戰爭に行かない爲に商人になつたと公言してゐる。

ブルタークは云つてゐる、マリウスは「キムブリ人及びチユートン人と戰ふ爲に、慣習及び法律を無視して、奴隷及び浮浪人を解放した。彼以前のすべての將軍は其等の者を彼等の軍隊から除外した。武器は共和國の他の名譽と同じく、立派な而して其の公に知られた財產が其忠誠

を保證した者のみが持つべきものであつた。」と。

（註五）「商業は身體を不具にし、精神を墮落せしめる。此等の仕事に從事する者が、決して公役に就く事が出來ないのは此理由からである。」(Xenophon's "Economics")

古代羅馬の貴族は bonus であつた、而してホーマー時代の希臘のユーパトリッド（貴族）は agathos であつた。何故なれば兩者共に、彼等の活動してゐた社會的環境によつて作られた、唯一の理想——身體的及精神的德なる勇武の理想を所有してゐたからであつた。彼等は勇敢で大量で、身體は强健で、精神は堅忍で、更に土地の所有者であつた。——卽ち彼等の居住してゐた土地を所有してゐる所の、氏族及び部落員であつた。（註六）

（註六）未開の英雄達に用ゐられた堅忍と云ふ形容詞は、時代錯誤ではあるが、只言語上の意味である。此語は玄關(Stoa)の下で敎へたゼノの弟子を指稱する爲に作られたのである。未開人はストア學派が得むと努めた、道德的の力を有してゐた。

家畜の飼育及び最も粗野な種類の農業を行つてゐる未開人は彼等の餘剩の肉體的及び精神的精力のはけ口として、又其以外に物を得る道のない彼等が物を得る手段として、狂熱的に掠奪及海賊行爲に耽溺した。一齣しか殘つてゐない希臘の詩（ヒブリアスの酒宴の歌）に於て、未開の英雄は歌つてゐる。「俺は富として俺の大きな槍、俺の劍及俺の圓楯を有つてゐる。それを以て俺は耕し、收穫する。それを以て俺は葡萄のよい汁を集め、それを以て「ムノイアの主」（其社會の奴隷の軍隊）と呼ばれる。」（註七）スエヴィ族は每年その男の住民の半數を掠奪の遠征に送つたとシイザアは述べてゐる。スカンヂナヴィア人は植付が終れば、船に乘込んで、歐洲の沿岸を掠める爲に出掛けた。トロイ戰爭の間、希臘人は掠奪に耽る爲に彼等の包圍を放棄した。「海賊の商買は當時耻づべきものではなかつた。それは榮譽に導いた。」とツキヂデスは云つた。資本家達はそれを極度に尊崇した。文明民族の植民地遠征は掠奪の戰爭に外ならない。而し資本家は彼等の海賊行爲を無產階級にさせるのに對して、未開の英雄達は自らそれに當つた。富を得る唯一の名譽ある方法は戰爭によつて得る事であつた。斯くしてローマ人の家族の子の貯は、Peculium casterense（陣營で集められた金）と呼ばれた。後に至つて妻の持參金がそれを增す樣になつてから、それは Peculium quasi casterense（陣營で集められたと類似の金）の名を負つた。此掠奪の常態は中世紀の「土地を有する者は戰爭を有する」と云ふ諺を文字通り眞ならしめた。家畜及び穀物の所有者は

決して彼等の武器を置かなかつた。彼等は手に武器を持つて日常の仕事をした。英雄の生涯は一つの永い戰鬪であつた。彼等はアキレスの如く、ヘクタアの如く若くして死んだ。アケアンの軍隊には只二人の老人、ネスタアとフエニクスが居たのみであつた。老齡に達すると云ふ事は當時に於ては非常に例外の事であつたから、年齡は特權——人類社會に潛入した最初の特權——となつたのである。

貴族は、其都市の防護を引受けて、其政府を當然彼等自身に保有した。之は家族の父達に委任された。而し商業及工業の發達が都市に於て數多の富裕な平民の階級を形成した時、彼等は數多の內爭の後、平民の爲に政府に於て席を與へる事を餘儀なくされた。セルヴイウス・チユリウスは羅馬に於て調査表に計上された十萬セステルセスの財產を有する平民に騎士の爵位を創設した。五年每に彼等は騎士の位階表を修正した。而して其財產が調査表の數字以下に下つた騎士、若くは調查官の烙印を蒙つた者はその爵位を失つた。商業によつて富を成したソロンはアテネの元老院及び法廷を、一匹の軍馬及二匹の牡牛を維持するに足る財產を有する者に開放した。歷史的記錄の保存されてゐるすべての都市に於て、吾等は同樣の革命の跟跡を發見する。而して軍馬の維持に適する富は、到る處政治的權利を生ずる。商業工業及び殊に高利貸によつて集積された富に起原した此新しい貴族は貴族の勇武の理想に自ら順應し、而して都市の防禦の一部分を引受ける事によつて、僅にその社會的優越を承認され、維持する事が出來、其都市の政治を分擔した。（註八）

（註七）十字軍によつて壞滅せられ、內部の軋轢によつて其土地を失つた、中世紀末の騎士は只戰爭によつて生活し、希臘の英雄の如く戰鬪で獲た戰利品に「劍の收穫」の名を與へた。

（註八）貴族側の代辯者で、又アテネ民主政治の敵であるアリストフアネスは新しい風習に對して古の風習を以て對抗する。而して奇妙な矛盾であるが、彼の最も激しい諷刺の毒矢でラマカス、クレオン及煽動政治家達を壓服し、貴族の反對にも拘らず、スパルタに對する戰爭を繼續する事を要求する。時勢は變轉した、古代の血の貴族政治、及び富の貴族政治は、大部分其好戰的感情のみを保持した。戰は最早彼等を富ましめなかつた。戰爭は彼等の家畜を奪ひ去り、野を荒し、橄欖や葡萄を根こぎにし、其收穫を毀ち、彼等の家を燒いた。アリストフアーネス自身もユーベアに領地を持つてゐたが、其はペロポネソス戰役の時の戰場の一であつた。理想家の性格を有して、財產の熱心な擁護者である、プラトーは、其「リバブリツク」の中で、希

臘人が毎年彼等の間では家屋や收穫を燒いてはならぬ事を要求してゐる。此等の武士の慰みは只未開の國々に於てのみ許されるべきであつたのだ。

丁度現代に於て行政的能力及科學的知識のない、鑛山若くは化學製品の工場管理者を想像する事が不可能である如く、古代に於ては勇武の德を有しない財產家を想像する事の不可能な時代があつた。財產は當時は嚴重であつた。それは其所有者に肉體的精神的性質を賦課した。財產家であると云ふ事實は勇武の理想の德を所有してゐる事を前提とした。何故なれば財產は此等の德を有してゐると云ふ條件でのみ獲得され、維持されたからである。勇武の理想の肉體的及び精神的德性は、如何樣かの型で有形的の物の中に合體してゐたのであつて、物は其等の德をもそれの所有者に移轉したのであつた。斯くして封建時代に貴族の稱號は土地に接合してゐた。其莊園を奪はれた諸侯は其貴族の稱號を失ひ、それは其莊園の征服者に加へられた。義務に就ても同じであつた。其等は土地の狀態によつて規制されたので、それを所有してゐる人によつてではなかつた。斯の如く有形的の物に精神的の德を附與した未開の人性賦與（アンスロポモルフィズム）程自然的なものはない。（**註九**）

（**註九**）馬性賦與（ヒポモルヒズム）なる轉倒した現象は中世紀に作られた。貴族は馬に乘り武器を帶びる權利を保有し、其によつて戰爭に於て優越の地位を占めたので、馬は封建諸侯には或尚武の德を賦與する如く、見えた。そこで彼は、古代共和國の富者の如く、彼の乘馬の名を採り、彼自身騎手 Chevalier, cabalero 等と呼ぶに至つた。彼の最も尊んだ德は、chevaleresque, caballevesco（武俠、佛語及び羅典語で馬と云ふ字から出てゐる）の如き、馬の德であつた。ドン・キホーテは馬を武者修行には甚だ重用なものと考へたから、サンチョ・パンザが驢馬に乘つて彼に從ふ事を許すには、大いに遲疑しなければならなかつた。

財產家が自ら保有した國民の防禦者たる役目は虛職ではなかつた。アリストートルはその「政治論」に於て、ペロポネソス戰役中、海陸の敗北はアテネの富者階級を著しく減少したと述べてゐる。又イアピゲスに對する戰爭に於て、タレンタムの上層階級は甚しく其數を失ひ、衆民政を布く事が可能であつた、而して三十年前には不幸な戰によつてアルゴスの市民の數は、ペリエコシ（市の城壁外に居住する植民者）に市民權を與へる事を餘儀なくされた程減少したとも述べてゐる。戰爭はその階級に斯く甚しい損害を與へたから、好戰的なスパルタの貴族も其に從事する事を恐れた。彼等の身體のみならず富者の財產も、國家の絕對に處理し得る所であつた。希臘人は

彼等の間にリタージスト、トリエルアルキスト等を任命し、彼等は公の宴會及艦隊の船の艤裝の費用を支辨しなければならなかつた。波斯戰役が終つた後、波斯人に毀たれたアテネの城壁を再建する必要のあつた時、公私の大廈は其を再建する材料を得る爲に破壞された。

勇敢である事、勇武の理想の德を有する事は、不動產及び動產の所有者にのみ許されて居たから、又有形的の物を所有する事くなしては此等の精神的性質は不用であり、又前述の二千人のヘロットの殺戮によつて證せられる如く、其所有者にとつて有害ですらあつたから、而して又有形的の物を所有してゐる事は精神的德性の證明であつたから、――精神的性質と有形物とを同一視し、其等を同一の語に混亂せしめる位、自然で論理的な事はなかつたのである。

二、勇武の理想の崩壞

彼等の惹起した經濟現象及び政治事件は、勇武の理想を崩壞せしめ、又言語がかくも無技巧に記錄してゐる、精神的の德と有形的の物との原始的結合を分離し始めた。

氏族の全員によつて共同に所有されてゐた耕作地の分割は、彼等の間に不平等を移入し始めた。土地は種々な原因から、氏族の數家族の手に集中せられ始め、遂に他人の手に落ちて、貴族の大多數の者はその財產を奪はれるに至つた。彼等は都市に逃れて寄食者として、ソクラテスの言を藉れば大黃蜂として、生活してゐた。彼等は其以外である事は出來なかつた。何故なれば古代の社會に於ては、而して實際奴隸に基礎を置くいづれの社會でも、手の勞働は、及び頭の勞働すらも、只奴隸及び外國人によつてのみ行はれ、報酬も極く些く、又農業及び家畜の世話の外は、卑しいものと考へられてゐるからである。

經濟現象によつて惹起された政治狀態はプラトーによつて「共和國」の第八卷に如何に賞讃するも足りないと思はれる力强い、明快な理想を以て說明されてゐる。激しい階級鬪爭が希臘の都市を惱ましてゐた。寡頭制國家、卽ち調査表に基いた國家、は「其本來の性質は一ではなくて、必然的に二つの國家を包含してゐる。一は富者より成るもの、他は貧民より成るものであつて、彼等は同一の土地に住して一方は他方に謀反する。」とソクラテスは云つてゐる。ソクラテスは貧民の中に職人及び奴隸を包含せず、只單に零落した貴族のみを云つてゐる。

「寡頭政國家の最も惡い事は、人はその下に於ては全て其所有するものを賣つてもい丶事であり、而して他の者は其を得てい丶事であり、而も彼が賣つた後も、商人でもなく、職人でもなく、騎兵でもなく、甲兵でもなく、只憐れな、弱い生物であつて、最早其市の市民でないのに其都市に住居してい丶事であつた。（註一〇）此不秩序を防止する事は不可能であつた、何故なれば、若しそれが禁止されれば、一部の者は餘剩の富を所有しない事になり、一方他の者は極度の貧困に陷るのである。支配階級に屬する者は、只大財産を有する者にのみ權威があつたから、嚴酷な法律を以て放蕩な青年の放埓を制する事、又彼等の浪費に陷るを防ぐ事を禁じてゐる。何故なれば、彼等は其等の者の財産を買取り、又それを高利によつて所有し、彼等自身の富と權力とを增加しようと考へてゐるのである。」

財産の集中は國家に於て「或者は借財に抑へ付けられ、或者は不名譽に落され、或者は財産と名譽とを共に失つて、大黄蜂の如く螫を持つた人民――他の市民に反對し、其零落に附け込んで其身を富ました者に對して敵意を抱き不斷の陰謀の狀態にある人民――の階級を生ぜしめる。而して彼等は唯一つの事、革命のみを愛してゐるのである。それにも拘らず貪欲な高利貸は、頭を垂れ、彼等が零落せしめた者に氣が付かない樣な樣子をして、尙來る者に高利を附した金を貸して彼等に大きな傷を負はしめる。そして彼等が彼等自身の收入を倍加する一方彼等は國家に於て寄食者と乞食の種類を倍加する。」

寄食者が其數及び亂行によつて支配階級の安全に脅威となつた時は、彼等は植民地を探す爲に派遣された。而して此方法が失敗した時は富裕な市民及び國家は食物及び金錢を彼等に分配して彼等を鎭めようとした。ペリクレスは只食客を海外に出し又養ふ事によつてのみ其權力を維持する事が出來た。彼はアテネの市民一千人をチエルソネサスに、五百人をナクソスに、二百五十人をアンドロスに、一千人をスレース及其他シシリイ、サリアムに植民する爲に派遣した。彼はエギナ島の住民を殺戮又は放逐して、其土地を籤引で彼等に分配した。彼はアテネを絕えず困しめた食客の爲に金を支拂つた。彼は彼等の芝居を見に行く金すらも彼等に與へた。六千人の市民卽ち政權を有する人民の約半數に、判事（Dikasts）の職分を行はせて金を與へる風習を輸入したのは彼であつた。（註一一）最初は一日一オボルであつた判官の給料は煽動政治家クレオンによつて三オボルに引上げられた。其年額は五千五百六十タレント卽ち十八萬弗に上り、其はアテネの如

き都市にとつても異常な額であつた。其故に、ペイサンダアが衆民政府を廢した時、彼は判官には以後支拂をせず、兵士のみ給料を與へらるべき事及び公の事務の監督はその財産及び身體を以て國家に盡し得る只五千人にのみ委ねらるべき事を布告した。ペリクレスは食客と共謀してゐた職人を制御し、滿足せしめる爲に大公共事業を企圖しなければならなかつた。

（註一〇）ソクラテスは、軍馬も飼ふ事が出來ず、完全な武具を購ふ財産もなくては、騎士としても、甲兵としても——即ち完全に武裝した武士として——仕へる事が出來ないと考へてゐるのである。

（註一一）政治上の權利を有するアテネ市民の數は、エヂプトから彼等の爲に贈られた穀物を分配せむが爲にペリクレスによつて行はれた調査（センサス）によつて證明された所によれば、一萬四千四十人であつた。

貴族階級の一部を奪つて、無階級の、零落した革命家の階級を創造した經濟現象は、其位置の海岸にある事より商業及び工業的活動の中心となつた都市に於て一層迅速な發達を遂げた。平民階級は商業、工業及び高利貸によつて富を成し、零落した貴族及び食客の數の増すに比例して、其數を増加した。此等の富を成した平民達は支配者から政權を剝奪する爲には財を失つた貴族と聯合し、而して政權を得た時は、支配者と結合して、貧窮になつた貴族及び殆んど若くは全く財産を有たない平民と戰つた。而して此等の後者が、都市の支配者となつた時は借財を廢止し、富者を放逐して、彼等の財産を分配した。追放された富者は彼等の都市に歸る爲に外國人の助力を哀願し、而して反對に彼等の征服者を殺戮した。此等の階級鬪爭は希臘のすべての都市を血を以て汚し、マセドニア及びローマをして支配し易からしめたのである。

彼等の生起せしめた經濟現象及び階級鬪爭は、勇武の理想が其中心として樹立されてゐた生活狀態を倒壞した。

戰爭をする方法も經濟現象によつて全て變更された。未開の英雄達の好んで行つた仕事たる海賊行爲及び掠奪は都市の進歩が彼等の侵入を防いだ爲に、困難となつた。ソロンは、商業市の首長であり、彼自身商人ではあつたけれども、宿弊に絡まれてアテネに海賊の學校を設立する事を餘儀なくされた。而し地中海岸に於ける數多の植民地設立、及び之の結果なる商業的發展は、海岸市をして、海を警備し、海賊を追跡せざるを得ざるに至らしめ、海賊の活躍は利益の減少する

に從つて其勢威を失つた。

重大な變革が海及び陸の軍事組織に行はれた。ホーマー時代の英雄達は、後に歐羅巴の大西洋岸を荒したスカンヂナヴィア人の如く、漕手及び水夫を伴はなかつた。彼等の自ら作り、而してホーマーによれば五十人から百二十人より以上は乗せる事の出來なかつた平底船には、只漕ぎ且つ戰ふ戰士のみが乗組んだ。戰爭は陸のみであつた。イリアッドは海戰に就ては何等記述してゐない。コリント人が造船及び海運力の增進の爲に致した改良は、戰爭には關係しない、金で雇はれた、漕手及水夫を使用する事を必要とするに至り、海陸の戰爭には甲兵及び他の一層輕く武裝した戰士が從事した。雇兵は一度艦隊に馴れゝば、陸軍に加入した。此等は最初は、其有する馬及び武具と同樣に、自ら用意した三日若くは四日の糧食の畠を有する市民のみから成つてゐた。彼等は其食糧品を使ひ果した時は敵を刧掠し、而して遠征——それは常に短い期間のものであつた——の終つた時、竈の側に歸つて來た。而し遠方で行はれた戰爭が、軍隊を永く止める必要のあつた時は、國家は戰士を給養しなければならなかつた。ペリクレスはペロポネソス戰役の初にアテネに於て、始めて、軍人となつた戰士——即ち賃銀勞働者、金で働く兵士——に給料を支拂つた。給料は一日甲兵に對しては二ドラクマ(約四十仙)であつた。ディオドルス・シクルスは、羅馬人が其軍隊に給料を支拂ふに至つたのはヴェイの攻擊の時であると云つてゐる。戰爭に對して給料を支拂はれる事になつて以來、戰爭はホーマー時代の如く、利益ある商賣となつた。當時既に最も高い値を申し出た者に其勞力を賣つてゐた所の金で雇はれた漕手及び水夫の團結が存してゐた如く、軍人の一隊も組織されて、貧しい市民及び階級のない、落魄した貴族は之に入隊した。(註一二)

(註一二)コリントの使者が、アテネの海軍力に怖氣付いてゐるスパルタ人に宣戰布告に參加する樣、誘はんが爲に彼等に向つて「吾々は只高い賃銀でアテネの漕手を誘惑する爲に資金を作る必要があるのみである。」と云つたと、ツキヂデスは述べてゐる。ユシアスはシヽリイからアテネの議會に宛てた手紙に於て、傭兵の逃亡を嘲つてゐる。數年の後、水夫等は北亞細亞のアテネの艦隊を去つて、高い給料を支拂ふリナンデルの艦隊に移つた。

カルタゴ人はシヽリイに於て希臘人と戰ふ爲に、給料を得て戰爭をする職業に從事してゐた希臘の軍人を放免した。アレキサンダアはダリウスに仕へてゐるギリシアの傭兵を發見したが、彼は彼等に希臘に對して未開人の側に立つて戰つた事を赦した後、彼自身の軍隊に編入し

た。給料の爲の戰爭は、未開人の間のかの野蠻な、深く根ざした愛國的感情を廢除した。ストア學派や犬儒派が、基督教徒よりも逈か以前に、古代社會の狹い障壁の上に起つてゐる人類同胞に就て語つた時、彼等は只單に經濟的及び政治的事件によつて完成された事實を、人道的、哲學的に言ひ表はしてゐたにすぎない。

寡頭政國家——卽ち富者によつて支配される國家は「戰爭をなすに無力である。何故なれば其は群衆を武裝せしめる事を餘儀なくされる故であつて、隨つて敵を恐れるよりも一層群衆を恐れなければならないからである。又若し然らざれば、之を用ゐずして眞に少數の軍隊を以つて戰爭に行かなければならない。」——卽ち富者のみが之に從事させられる、とソクラテスは云つた。而し戰爭の新しく起つた必要は、富者をして其恐怖を抑へ付けて、古代の慣習を犯す事を餘儀なくした。彼等は貧民及び奴隸さへも武裝する事を餘儀なくされた。アテネ人は奴隸に自由を約して、之を其艦隊に入隊せしめ、而して彼等はアルジヌセーに於て（紀元前四百六年）勇敢に戰つた者を解放した。スパルタ人自身すら、ロットを武裝し、解放する事を餘儀なくされた。彼等はアテネ人に攻圍されたシラクサ人の救援に、ヘロット及びネオダモデス（新に市民たるを許された者）より成る六百の甲兵の一隊を送つた。スパルタ共和國の政府は、或者は高い政治上の地位を有しながら、スフアクテリアルに於て降服したスパルタ人に對し侮辱を蒙らしめた一方に於て、アテネ人から攻圍されてゐた間、彼等から糧食を掠め取つたヘロットには自由を許可した。武士を傭兵、軍人（註一三）に變化せしめた賃銀は、短期の間に社會的解體の機關となつた。希臘人はプラテアに於て「彼等は波斯人に對する憎惡を子の子に傳へて、河流の海に注ぐ限り繼續せしめむ」と誓つたが、然るにも拘らず此誇ある誓約の後、半世紀にしてアテネ人、スパルタ人及びペロポネソス人は、彼等の水夫及び軍人に支拂ふ補助金を得る爲に波斯王の機嫌を取る事に專念するに至つた。ペロポネソス戰爭は貴族の沒落を早め、經濟現象が沈默の中に用意した、尙武の風習の崩壞を白日の下に暴露した。

（註一三）歐洲語に於て、warior（武士）と云ふ語に代つた Soldat の語（英 soldier. 獨 soldat, 西 soldado, 伊 soldato 等）は小貨幣を意味する、Solidus から來てゐる。此語から solde 給料の語が派生する。軍人が其名（soldier）を得たのは、彼の受ける給料から得たのである。歷史的には軍人は最初の賃銀勞働者である。

其特權の最初のものとして武器を帶びる權利及びその祖國を防禦する權利を自身に保存してゐた富者は忽ちにして軍隊を彼等自身の代りに傭兵を以てする風習を得た。ペリクレスの改革の後百年にしてアテネの軍隊の大部分は傭兵を以て組織さるるに至つた。デモステネスは彼のオリンシアックスの一に於て、オリンサスに對し派遣された軍隊の中、四千人は市民であり、一萬人は傭兵であつた、又フィリップがケーロネアに於て粉碎した軍隊中では二千人がアテネ人及びテーべ人であり一萬四千人は傭兵であつた、と云つてゐる。富者は戰爭はしなかつたが、戰爭の利益は之を收得した。「富者は其富を保持する事に於て卓拔してゐる。彼等は危險を群衆に負はしめ、而して戰爭の利益の大部分を掠め取る事に滿足せずして、それを殘らず奪ひ取つた。」とシラクサの煽動政治家アセナゴラスは云つた。

未開人の貴族は幼少時代からあらゆる鬪爭の勞苦に鍛へられて、何者をも恐れない戰士であつた。新しい富者は反對に、ソクラテスの云つてゐる如く戰に耐へる事は難しい。卽ちソクラテスは云つてゐる。「富者と貧者とが共に陸若くは海の軍隊にある時は、互に危險の狀態にあつて、富者は貧者を輕蔑すべき何等の理由もない事を認める。其反對に針金の樣な、日に燒けた貧民が、戰場に於て、日蔭に育てられ、贅肉によつて目方の付いた富者の傍に配置された時、彼が全く息を切らし、身體を惱ましてゐるのを見る――此時如何なる考が彼に浮ぶと諸君は思ふか。此等の人々は其富を只貧者の怯懦の御蔭によつてのみ有してゐるのだと云はないであらうか、而して彼等丈の時は互に『眞實の所、金持等は役に立たないのだ。』と、云はないであらうか。」と。

富者は、兵役の任務を放棄し、其祖國を防禦する爲に彼等の代りに傭兵を置いて、彼等の生存を理由付ける物質的財産のみを己れに保有し乍ら勇武の理想の肉體的及び精神的性質を失つた。而して、アリストートルの云ふ如く、富は有德の報酬である事から離れて、人々を有德である事から免除する事となつたのである。（註一四）

而し乍ら、最早富者によつて培はれない勇武の德は、何等物質的財産を所有しない傭兵、解放された民及び奴隷の附屬物となつたのである。而して未開の勇士をして富に導いた此等の德は、只兵士をして悲慘な狀態に、その給料で生活するを以て滿足せしめるに至つた。經濟現象は斯くして以前は全く密接に融合してゐた物質的財産及び精神的性質の分離を決定したのである。（註一五）

（註一四）同樣の現象は中世紀の末に再び現れた。封建諸侯は彼等を圍む數多の敵に對して彼等を擁護すると云ふ條件に非れば、農奴及び臣下に對し、物の損料を取り個人的奉仕をさせる權利はなかつた。而し經濟的及び政治的事件の生起する中に、國內が一般に平靜になつた時、諸侯は最早擁護者としての役目を勸める要はなかつた。而し之は彼をして彼等の服從及び物の損料を保持し、剩へ增加させる事を妨げなかつた。

（註一五）資本主義時代に於ても、全く同樣に殘酷な、革命的結果に富む類似の分裂が見られる。十九世紀の初年資本主義時代の初めに於ては、小商人及び職人の理想は一般の輿論と一致を得てゐた。勞働、秩序及び經濟は財產に密着してゐると考へられた。此等の精神的の德は次に有形的財產の獲得に導いた。經濟學者やブルジョア道德家は尙鸚鵡の如く、財產は勞働の果實であると繰返すとも、最早旣に其は勞働の報酬ではない。理想的な職人及び小商人の德は、最早賃銀勞働者を、慈惠院と病院以外には導かない。

勇武の德を具へた此等の傭兵の中には、高利及び內亂によつてその財產を失くした、夥しい數の貴族があつた。而して一方富者はその階級の中に、商業、高利及び他人によつて行はれた戰爭によつてすら富を成した、數多の人民を包含してゐた。斯くペロポネソス戰役の初、コリントがコルシラに對して其遠征の準備をした時、國家は兵役に加入する市民には征服された土地に於ける分前を約し、戰役に參加せずして五十ドラクマを出す者にも同樣の利益を申し出でた、とツキヂデスは述べてゐる。

勇武の理想は、道德觀念に不秩序と混亂とを種播きつゝ、粉碎されて了つた。而して此混亂は宗敎的觀念にも反映された。最も馬鹿々々しい迷信がアテネにすら榮え續いた。其爲にアナクサゴラス、ディアゴラス、ソクラテスは死を宣告され、プロタゴラスの作は神に對する不敬として燒かれた。それにも拘らず、滑稽な作家達は神や說敎者に對して反抗した。それは一層大膽な、最も無暴な、そして最も諷刺的な攻擊であつた。煽動政治家及び僭主は其寺院を汚し、其建物を顚覆した。而して放蕩者は、夜中に、立てられた神の像を汚し、顚覆した。太古から傳へられ、其等が一般の慣習と一致してゐる間は純朴に受け入れられた、宗敎的傳說は其無稽に驚かれるに至つた。ピタゴラス及びソクラテスは其等を廢止する事を要求した。尙又ホーマーやヘシオッドを削る事又は彼等の詩を讀むを禁ずる事すらも、必要だつたのである。エピキユラスは神々に關する傳說を

信じ、其を繰返す事は無神論の所業であると宣言した。初紀元の基督教は、邪教徒が邪教の中に於てなした批評を一般化し、組織化するより外何事をもしなかつた。

時はブルジョア社會の爲に鳴り響いた。それから——私有財産と商業的生産に基礎を置く社會の爲に——經濟現象によつて作られた新社會狀態に適應した、道德的理想及び宗教が形造られ初めた。而して希臘の詭辯哲學が新宗教、新道德理想の中心となつた事は、其の永遠の名譽である。ソクラテス及びプラトーの倫理的努力は今尚凌駕されてゐない。**(註一六)**

(註一六) 吾人は商業的生産とは、勞働者が彼自身又はその家族の消費の爲ではなく、賣る爲に生産する生産形式である事を諒解しなければならない。ブルジョア社會の特徴である此生産形式は、奴隷、農奴、若くは賃傭勞働者を使用するにせよ、生産が自らの消費の爲であつた所の、其以前の生産形式と絕對に區別される。古代の貴族の家族は、中世の諸侯の如く、彼等の領地に於て、職場に於て、食物、衣服、武器等一言にして言へば、彼等の必要とした殆んど全ての物を生産した。而して彼等は其消費の餘剩を一年の或期間に於てのみ交換した。

三、ブルジョア道德の理想

簡單にして論理的な勇武の理想は、圍繞せる現實を扮裝する事なく、又牽強附會する事なく、思想に反映した。其理想は未開人の英雄等が物を獲得し、保存する爲に所有しなければならなかつた、肉體的及び精神的性質を、人間の心の第一の德として樹立した。彼等は物を所有するが故に、第一の市民の中に、又地上の幸福な人々の中に數へられたのである。

勃興しつゝある民主的ブルジョア社會の現實は最早此理想に適合しない。富、名譽、享樂は最早勇氣及び其他の英雄的美德の褒賞でない事は、現代の資本家社會に於て財産が勞働、手段、經濟の報酬でないと同じである。それにも拘らず富は常に人類活動の目的であつて、而も益々その唯一の崇高な目的となりつゝある。斯くも熱心に欲求されたる此目的に達する爲に、以前非常に貴ばれた勇武の性質を働かす事は既に必要ではなかつた。而し新しい社會狀態に於ては此等の性質は不用に歸し、出世の妨げとすら、なつたのであるけれども、人類の性質から此等の性質が取り

去られてゐなかつた爲めに、而して又其等は古代の共和國では困阨及び內亂の原因となつた爲めに、彼等を新社會狀態の繁榮及保持に利用せんが爲には、それに純精神的な滿足を與へる事によつて其を鎭壓し、馴致する事の緊急の必要があつたのである。

詭辯學派は此仕事を企てた。或者は、キレナイック派の如く、現實を變裝しようとは試みずして、直截に認識し、富の所有は「最高善」であり、其の獲得する肉體的及び知的享樂は「人類の重要目的」であると聲高く宣言した。彼等は大膽に合法的及違法的のあらゆる手段によつて富を獲得する術、及び法律及び慣習を下手に犯す事によつて惹起せられる不快な結果を避ける術を公表した。犬儒派及び多くのストア派の如き、他の詭辯學派は、法律及び慣習に對して明らさまに反對し、前社會的狀態に復り、「自然に從て生活せむ」事を欲した。彼等は富を蔑視する風を裝ふた。「賢人のみ獨り富めり」と彼等は誇らかに叫んだ。而し彼等に達し得られない富の蔑視は、あまりに甚だしく時代の傾向及び一般の感情に反し、而して又屢あまりに浮誇的であつて、眞面目に受入れられなかつた。更に如何なる黨派も、彼等の道德說を、社會的に、實用に供しようとはしなかつた。而して之が正しくブルジョアデモクラシィの要求した所であつた。ソクラテス、プラトー及びストア學派の大多數の者の如き、他の詭辯學者は正直に道德問題に對した。彼等は富に對する輕蔑を教諭として立てずして、反對に其等は幸福の條件の一であり、又今は德の報酬ではないけれども德の條件の一であるとすら看做した。正しい人間は彼の德に對する報酬を外界に求むべきに非ずして、心奧に、現實世界の外に置かれたる永遠の原則に導びかるべき彼の良心に求むべきである。而して彼は只來世に於てのみ彼の報酬を受ける事が出來るのである。（註一七）

（註一七）其生存中は其に魂を入れ、死後は其を棄てる所の身體と獨立した、其自身存在する、形而上學的實體たる靈魂は野蠻人の發明である。彼等は夢の現象を說明するのに、人を二つに分けるより簡單な事はない事を知つた。身體は睡に陷つて其生命を奪はれて、其場所に殘つて居る時、一方彼等が幽靈と呼んだ靈魂は旅に出て、狩し、戰ひ、復讐し、活動した。其から其肉體の包を蘇生さす爲に歸つて來て、其は生きかへつた。死後も幽靈は生存し續けた。斯くして葬式の時彼等は彼等の幽靈が引續いて死人に仕へる爲に動物を犧牲にし、武器を毀つた。氏族の共產生活を生活してゐる野蠻人及び未開人の靈魂は、男も女も、死後には超下界の住處に行つて、其處で彼等は再び彼等が下界で暮したと同樣な生活をした。エスキマウの靈魂は海豹を

狩した。レッドスキンの靈魂は野牛を追つた。スカンヂナヴィア人のそれは晝は戰爭し、夜はヴァルハラでヴァルキリーズと一緒に宴した。

原始共產制の變化に續いて又其結果として、超下界の觀念は人類の心から消え去り、靈魂の觀念も薄らいだ。――族長制時代には家長のみが死後に生存する唯一人であると考へられるに至るまで。而し彼の靈魂は極樂に行く代りに、其墓場で極度に悲しい生活を送つた。財產の管理者たる資格に於て、一身に家族全員の權利を集中してゐた、家族の長は、同樣に其身に彼等の不死の靈魂を集中してゐた。其から別の夢の說明が發見された。夢は神からの通信であつて、其を人は其運命を知る爲には、解釋しなければならなかつた。私は上に長子相續權の設定に於て、家長の靈魂の不滅によつて行はれる役目に就て述べた。夢の新しい說明は夢判斷を業とする、人類の愚昧を利用する者の階級を生ぜしめた。彼等はソクラテスの時代に榮えた。

族長制の壞滅の時代に、婦人を除く家族の全員は其獨立を恢復して、家長によつて取上げられてゐた彼等の不死の靈を再び、同時に彼等の權利と共に見出した。而し彼等の靈魂を取り返した者の大部分が、反對に彼等の家及び地上の財產を失つた樣に、彼等は死後何處に住まふべき乎に就て非常に當惑した。彼等は野蠻人の超下界の住家を再び發明する事を餘儀なくされた。ソクラテス及びプラトーは靈魂の不滅を族長家族の廢墟から解放して其を人を治める道具として利用する事に熱心であつた。彼等は此途に於てはピタゴラスに先んぜられた。而し靈魂の利用を極度に完全にまで行つたのは基督教であつた。

彼等は犬儒派の如く法律及び慣習に對して反抗しなかつた。彼等は其反對に和合を彼等に勸告し、各人は其地位に止まつて、而して彼の社會的狀態に彼自身を適合せしむべき事を說いた。斯くして聖オーガスチン及び寺院の長老達は基督教奴隷の上に、彼等の天上の主の恩寵に値する爲に地上の主人の爲の熱誠を二倍すべき事を義務として課したのである。(**註一八**)

(**註一八**) 犬儒派及び彼等の後に最初の基督教徒等は奴隷廢止を要求する事が出來た。彼等は革命家であつた。而しソクラテス及び寺院の長老達は、寧ろ道德と宗教の助けによつて、眼前の社會組織を支持する役目をした。

ペリクレスと昵懇であつたソクラテス、及びシラクサの專制君主の宮廷に屢出入したプラトーは、倫理及び宗教の中に人間を支配し、社會秩序を維持する機械より外何物をも見ない全くの政

治家であつた。

詭辯派哲學の此等の二人の狡猾な天才は、ブルジョアの個人主義的倫理——其は言葉と行爲とを矛盾に置き、而して人生を二部分、卽ち純潔な理想生活と、不純な現實生活——一方は他方の反對である所の、——に分つ事に哲學的承認を與へる事のみを以て足る倫理——の建設者である。十七世紀の「非常に高貴な、すぐれて尊い貴婦人」が、其純精神的（プラトニック）な愛人との知的戀愛を、必要に應じて一人若くは幾人かの愛人が勤めてくれた、その夫との肉體的戀愛の充實した享樂によつて自ら慰めて、二樣に戀する事を得たのは斯くしてであつた。

商品的生產に基礎を置く社會の倫理にとつては、此矛盾から逃れる事は不可能なのであつて、其は資本家が爭ひつゝある抗爭の結果なのである。商業的及工業的企業に成功せむとせば、彼は德を以て身を飾り、世間の良い評判を得なければならないが、若しも彼が繁榮せむとするならば其を實行する事は出來ない。而し彼は、見せかけの此等の德は他の者にとつては、絕對のものであつてカントの所謂「無上命令」である事を知つてゐる。彼が無價値の商品を賣却しても澤山の金の支拂を要求するは此故である。（註一九）ブルジョア階級は、その暴虐な强力によつてのみ階級獨裁を維持してゐても、被壓抑階級に其社會組織は、自由哲學の飾り立て、ソクラテス及びプラトーが基督よりも四世紀以上も前に一部分作つた所の、永遠の原則の出來る丈け近い實現である事を信じさせる事によつて、彼等の革命的勢力を弱める必要があるのである。

（註一九）異敎徒等は眞理を伴る事を試みなかつた。而して彼等は商業を盜賊の神マーキユリイの保護の下に置いた。天主敎徒等は一層陰險である。家產の獲得のみに獻身してゐない宗敎的僧團は、商業及び工業を彼等の主要な、又は唯一の職業としてゐた。彼等は全ての惡から純潔に、すべての僞りから潔白に、神を崇める風を裝つてゐたけれども。

一七八九年に施行された資本主義的ブルジョアジイの最初の法律は、商工業をすべての制御から解放して、盜奪の自由を宣言する事であつた。中世紀のギルドの親方等は只地方市場、其鄕人等の爲にのみ勞働し、生產に對して嚴格な管理を行つた。ギルドの幹事等は何時でも材料及び生產の方法を檢査する爲に職場に入る權利を有した。彼等の監督に便ならしめる爲、仕事中は職場の戶や窓は開け放しにされた。中世紀の職人は文字通りに、公衆の監視の眼の下に働いた。商品は賣り出される前に、幹事等によつて管理され、ギルドがその良い品質なる事を保證

する旨の封印又は其他の記號を附せられた。此資本主義的ブルジョアジィの竊盗の天才の活躍を防止し、抑壓した不斷の管理は、ギルドに對するブルジョアの最も主な苦情の一であつた。宗教的道德も此宿命的矛盾を脫しない。基督教の最高の型式が「相互の愛」であらうとも、基督教寺院は彼等の店に顧客を惹付ける爲に、又彼等の言ふが如く、地獄の永遠の火から救ふ爲に、異教徒を砲丸と劍によつて改宗させる事のみを考へてゐる。

戰爭、及び氏族の共產制によつて惹起された未開の社會的環境は、其極度の限界を擴げて遂に人類の最高の性質——腕力、勇氣、道德的禁欲主義、社會及市に對する身體及び物の貢獻——にまで及んだ。私有財產及び商品的生產に基礎を置くブルジョアの社會的環境は、反對に人類の精神の最惡の性質なる利己主義、僞善、奸策、放埒、竊盗を根本の德として樹立する。(註二〇)

(註二〇)ブルジョアの作家達は文明の惡弊を野蠻人や未開人の上に積み重ねる事に慣れてゐる。資本家等は彼等を開化に導くと云ふ口實の下に彼等を盗取し、搾取し、撲滅する。而して彼等を肉體的及び精神的にアルコール中毒、黴毒、聖書、强制勞働、及び商業を以て墮落せしめるのも資本家である。

文明によつて汚されない野蠻民族と接觸する旅行者は彼等の道德心に吃驚する。自由主義の哲學者達の中で只一人價値あるライブニッツは彼等に尊敬の念を拂ふ事を禁ずる事が出來なかつた。彼は書いてゐる、「私は疑ふ事なく、加奈陀の野蠻人が、彼等の間に如何なる種類の支配者もないのに共に平和に生活してゐるのを知つてゐる。吾々は決して、若くは未だ嘗て殆んど、世界の其部分に於て、異民族及び言語を異にする人々の間ではさうでないにしても、爭論、憎惡、戰爭を見た事がない。私は之をアリストートルも知らなかつた、又ホッブスも認めなかつた、政治上の奇蹟であると敢て曰はう。子供すらも一緒に遊んでゐて、殆んど毆り合ふ事はない。而して彼等が少し過度に激し初めると、彼等はすぐに仲間に制せられる。彼等の生活してゐる平和が魯鈍な、無感覺な性格の結果であると想像してはいけない。何故なれば何者も彼等の敵に對する活動に匹敵するものなく、而して彼等の間に於て名譽の感情は極度に働いてゐる事は、彼等が復讐に對して示す熱心と、苦艱の眞中に死する堅忍とによつて證據立てられる。

ブルジョアの道德は、プラトーは之を天より下るものであり、又賤しい利害を超越した平面上にあるものであると主張するけれども、全く適當に俗惡な現實を反映するものであつて、其故詭

辯學者は此原則——其は此原則のいゝ審判者である所のヴィクトル・クーザンによれば「永遠に於ける倫理」である——を指示する爲に新語を作る代りに、通用語を用ゐて、其を善——to agathon と呼んだ。哲學的理想と相並んで、及び其に續いて、基督教の理想の形成された時、其は同様の必要に遭遇した。寺院の長老達は其に俗惡な現實の極印を捺した。

異教徒が富の意味に用ゐ、而してヴァルロが「數多の物を所有する者」qui multa bona possidet と定義してゐる Beatus なる語は、教會の羅典語では「神の恩寵を有する者」となる。——ペトロニウス及びデカダンスの作者達が富の意味に用ゐる beatitudo はサン・ジエロームの筆の下では天上の慶福を意味する。——異教の創始者によつて、富裕な者に對して與へられた綽名 beatissimus は家長、寺院の長老、及聖人の異名となる。

言語は吾々に、未開人が其の例の人性賦與(アンスロポモルフィズム)の手續によつて、彼等の精神的の德を有形的の物と合體せしめた事を示してゐる。而しブルジョアの生産及び交換様式の基礎をなした經濟現象及び政治事件は精神及物質の原始的結合を解體した。未開人は此結合に對しては赤面しなかつた、何故なれば其は物の獲得及び保存に役立つた、彼の最も誇とする、肉體的及び精神的性質であつたからである。反對にブルジョアは其の富に達する爲に行はれなければならない低い道德を耻ちてゐる。其故に彼は其靈魂は物質の上にさ迷ひ、永遠の眞理及び不易の原則によつて生きる事を信ぜしめんと欲し、遂に彼は信じてゐるのである。而し懲し得ぬ譏者たる、言語は吾々に最も純化された倫理の深い雲の下に、資本家の至高の偶像、善、財産の神がかくれてゐる事を暴露する。

人類活動の他の現象と同じく、倫理はマルクスによつて形成された唯物史觀の法則に服する。卽ち物質的生活の生産方法は一般に社會的、政治的、及び知的生活の發展を支配する。

社會主義社會觀終

大正十一年一月十日印刷
大正十一年一月廿日發行

社會主義社會觀

定價金二圓三十錢

譯者　千葉雄次郎

發行者　東京市京橋區桶町十五番地
株式會社大鐙閣
代表者　面家荘佶

印刷者　東京市小石川區久堅町百八番地
土谷清隆

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地
株式會社博文館印刷所

發行所　東京京橋桶町
大阪三休橋南
株式會社大鐙閣
振替東京三六一八・大阪一七一五

解放なくして何の人生ぞや

第一編

(1) コール原著 中目尚義譯 **勞働組合指針** 定價二圓五十錢 送料十二錢

(2) 山口孤劍著 **階級鬪爭史論** 定價二圓五十錢 送料十二錢

(3) ウンタアマン原著 山川均譯 **マルクス經濟學** 定價二圓八十錢 送料十二錢

(4) シユルツエ・ゲバニツツ原著 佐野學譯 **マルクスかカントか** 定價二圓 送料十二錢

第二編

(5) 法學博士 堀江歸一著 **經濟組織改造論** 定價三圓五十錢 送料十二錢

(6) エンゲルス原著 堺利彦譯 **空想的及科學的社會主義** 定價二圓 送料十二錢

(7) 中目尚義譯 **ボルシェヴィズム批判**（原名過激派の本領） 定價二圓二十錢 送料十二錢

(8) レヴインスキー原著 貴島克己譯 **財產起源論** 定價二圓 送料十二錢

東京・京橋 大鐙閣 大阪・三休橋

共存共勞共苦共樂の明日に備へよ

第三編

(9) リー教授原著 暉峻義等譯 **生理學上より觀たる勞働者問題** 定價二圓五十錢 送料十二錢

(10) ゴルテル原著 堺利彦譯 **唯物史觀解說** 定價二圓二十錢 送料十二錢

(11) クロポトキン原著 遠藤友四郎譯 **近世科學と無政府主義** 定價二圓二十錢 送料十二錢

(12) 堺利彦 山川均 共譯 **マルクス傳**（附エンゲルス傳） 定價二圓八十錢 送料十二錢

第四編

(13) ロイド原著 荒畑寒村譯 **勞働組合論** 定價二圓五十錢 送料十二錢

(14) 高畠素之著 **社會主義的諸研究** 定價二圓五十錢 送料十二錢

東京・京橋 大鐙閣 大阪・三休橋

悉な是れ解放精神の産物

編

(15) フランツ・オッペンハイマー原著 岡上守道譯 **國家論** 定價二圓五十錢 送料十二錢

(16) カアペンター原著 山川菊榮譯 **戀愛論** 定價二圓 送料十二錢

第五編

(17) ブレーゼー原著 岡田甲子之助譯 **立憲的工場組織** 定價二圓五十錢 送料十二錢

(18) テーラア原著 新明正道譯 **ギルド國家論** 定價二圓 送料十二錢

(19) 高畠素之著 **マルクス學研究** 定價二圓 送料十二錢

(20) 法學博士 堀江歸一著 **勞働問題の現在及將來** 定價二圓二十錢 送料十二錢

◆第六編(21)以下逐次續刊◆

東京・京橋 **大鐙閣** 大阪・三休橋

502
71

終